

事業&活動報告

千葉市民活動フェスタ2022実行委員会 個性豊かな実行委員9名、始動&日々奮闘中！

テーマは「今年は、シン・フェスタ 未来の千葉が見えてきた」。「シン」を、どう受け止めますか。思いつくイメージを漢字であらわすと、「シン」=新、真、心、親、進、信、伸、普、身、振、清、紳、秦、脈、、、etc。

2022年フェスタ実行委員会は6月23日から始動し、毎回19時~21時まで白熱した議事進行がなされ、8月末までに5回の会議を重ねております。

フェスタ開催に向けて試行錯誤していく様子は、まさに「シン・フェスタ」のテーマそのものだと確信する日々です。それは、

- ①オンラインと対面、ハイブリッド式で開催するということ。
- ②9名の実行委員会メンバーが多彩。10代~70代、男女、新旧経験者のバランスもよく、各自の得意分野も、異彩を放つ。
- ③仕事を終えてからの会議は、リアル&Zoom参加も板につき、シン・ハイブリッド型で開催。毎回はじけるような意見が飛び交う。

④次の会議を待たずに、SNSを駆使したコミュニケーションを取り合い、そこに呼応して行動するスピード感もすごい。

⑤改善に向けて日々何かが進捗することに、事務局もタジタジ。

もはや全員が、ワクワク、ドキドキ、そして楽しみは増すばかり。2022年のフェスタは、日頃の市民活動の成果が、「シン・フェスタ」を通して、私たちが願う、「未来の千葉が見えてきた」に、確かにつながっていくことでしょう。



ある日のフェスタ実行委員会の風景
多彩なメンバーが集合！



参加説明ビデオの収録

Q&A? 会議室や談話室の予約はホームページからでもできますか?

申し訳ございませんが、当センターの会議室・談話室の予約手続きを、ホームページから行うことはできません。お手数ですが、「電話または来所」にてお願いいたします。その後できる限り速やかに「使用許可申請書」をメール・FAX等にてご提出ください。

また、抽選申込期間における“抽選の申し込み”については、電話(口頭でのご連絡)では受理できません。必ず「使用

許可申請書」をご提出ください。

(※印刷機の予約についても上記と同様ですが、提出書類の名称(様式)が異なりますのでご注意ください。)

なお、会議室・談話室・印刷機の空き状況については、当センターホームページ(右のQR)から、どなたでもご確認いただけます。



ミニコラム

ちばさぽの風 vol.51

夏休みとボランティア・市民活動

3年ぶりとなる、行動制限のない夏休みを迎えました。しかし、7月に入った頃から、新型コロナウイルスの新規感染者数が急拡大したこともあり、自主的に行動を制限している方も見られます。また、千葉市内でも夏休み恒例の大規模イベントが中止になったり、規模を縮小して開催することになったりしたものもあり、コロナ禍前の夏休みが戻ってきたというにはほど遠い状況だと、多くの方が感じているのではないのでしょうか。やはり子どもたちにとっては、夏休み自体が特別なイベントだと言えると思います。コロナ禍前の生活様式に戻さない方がよいこともあるかもしれませんが、夏休みに限っては、子どもたちが元気よく外で遊んでいる姿が当たり前に見られる、コロナ禍前のような状況に戻ってほしいと願わずにはいられません。

さて、市民活動の世界(当センター)においては、夏休み(7・8月)の特徴が二つあると感じています。一つは、センターの入館者数が、4月から6月と比べて減少する(多くの年でそういったデータが現れている)ということです。これは暑さが厳しいため、定期的に活動をしている団体も“夏休み”とするところが多いからではないのでしょうか。

もう一つは、夏休みを利用してボランティア活動や市民活動の体験(「ボランティア体験」と呼ぶことにします)をし

ようとする人が増えるということです。当センターにも例年、学生さんなどが「夏休みにボランティア体験をしたいのですが」といった相談に来られるケースが見られます。ところが今年は、そういった相談に来る方が残念ながら少ない状況です。一概には言い切れませんが、コロナの影響もあるのではないかと考えます。ボランティア活動は人と接する内容のもの(場面)が多いので、そういったことが敬遠されているのかもしれませんが、受け入れ側も、コロナ禍が続いているため、ボランティアの募集を見合わせている団体が多いのが実情です。

最近、「リモート・ボランティア」なる言葉を目にしました。例えば、自宅で絵手紙を書いて高齢者施設に送るといった、人と直接接しなくてもできるボランティア活動のことを言うようです。こうした活動はコロナ禍前からあったと思いますが、忙しい人でも参加できるというメリットもあるので、今後「リモート・ボランティア」が広がっていくかもしれませんね。ただ個人的には、コロナが終息したら、人と直接接し合う活動をおススメしたいというのが本音ではあります...(は)

